「大谷創造都市計画」展（2）

建築家　神谷　五男（プロデューサー）

〈創造計画の概要〉

計画は現在地上にある観光資産、景観資源、既存生活道路エリアは現況のまま保存します。その他のエリアは思い切って、地下約平均して60mまで掘り下げます。掘り下げられた地底には、住居、行政、教育、文化、芸術施設、広場を配します。掘り下げる工法は大谷の歴史的な採掘手法を考えるとそれ程に難易な手法ではありません。掘り下げることで、地下にある大谷石層の石材は、建材、その他として利用します。この工法は陥没、落盤に対する安全性が確保できます。掘り下げていくと、保存される地下部に既存の横杭が表出されます。横杭は補強整備し、地下空間として利用できる場とします。計画ではこのゾーンをストーンコリドールと名称します。ストーンコリドールは石の列柱の地下空間として、大谷独特の空間として整備されます。ここは都市の日常として商業、サービス、娯楽施設、その他貯蔵流通基地、情報基地、先端科学支援基地などが配され、外部からの人々の流入で都市として賑わいのある都市空間そして21世紀の新たな経済市場となる基地を構築します。

この都市は定住人口が1万人を想定し、昼間人口を3万人として計画されます。地底部の活用と地下空間が一体となった都市空間は世界のどこにもない新たな風景の都市として機能します。計画の実現性にあっては、地元住民の協力、建設費、建設工法、法的対応、さまざまな難問があります。しかしこれから、百年先を目標にし、現代の技術と知恵を持ってすれば可能なプロジェクトです。大谷地区は数百年という人の営みの歴史を通して生み出した歴史遺産です。世界の中でもまれな「至宝」です。大谷でしか出来ない「都市」、それは宇都宮市の財産とアイデンティティです。未来に向かって計画を進めるべきだと思います。私たちの提案はまだ荒々しい計画の段階です。この先、目標に向かって更なる検討を進め、次の世代につなげたいと思います。

創造都市計画イメージパース（直径2㎞を約60m掘り下げ地底部に新たな都市を計画する）

グランドマスタープラン（現状ＧＬより-60～80mレベルの平面図）

創造都市計画立面図（掘り下げていくと、既存の横杭が現れます。必要な補強を施し地下空間として利用する。）

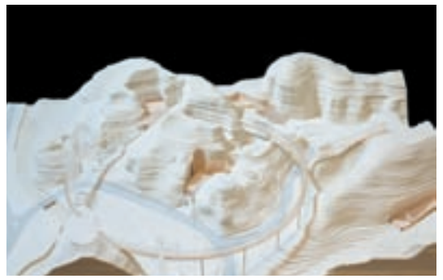
創造都市計画平面詳細図（ストーンコリドール（石の列柱）による大谷独特の空間を創出する。）

創造都市計画模型（既存横抗を構造的に補強を行い地下空間ならではの様々な利用が可能となる。また、大谷でしか出来ない魅力ある都市を創出する）

〈保存区域の計画〉

このエリアは、現在大谷石資料館として使用している採石地下空間の周辺を対象としている。この領域には、御止岩をはじめ、かつて露天堀りで採石した跡地が数か所、残されたままである。それらは数十メートルもある岩肌のそそり立つ「コの字」の跡地であったり、「Ｕの字」の空間でもある。その岩壁は歴史を物語る貴重な痕跡である。計画はそれらの採石地跡を再整備し、フォーラムとして計画する。

また、計画地エリアは通常、私たちには、人の目の高さでしか可視できない。地上より約15ｍから20ｍの高いレベルで、それぞれのフォーラム、御止山を連続する空中リングロードを計画し、この周辺の新たな風景を楽しめる計画とする。これらにより、大谷地区の起伏に富む岩山の持つ地形や奇岩群を再考し再利用する計画である。


保存区域の計画案模型（新たな風景を楽しむ、空中リングロードと大谷独特の岩肌を利用したフォーラムの計画。）

世界の石窟住居群
右側：バーミアン（アフガニスタン）
左側：エローラ石窟群（インド）

右側写真
NPO法人大谷石研究会の会員、小西正敏、陣内雄次、高橋啓子、神谷五男などのパネラーによる「大谷地区の展望と未来に向けて」の討論会風景。
2009年8月1日、ギャラリー悠日にて

宇都宮の街で 大谷石＋JAZZ

NPO法人 大谷石研究会理事
武井　貴志

2009年11月7日、大谷資料館に於て、サキソフォン4管JAZZユニット、サキソフォビアのコンサートが開かれました。

宇都宮が誇る唯一無二の地下空間、最長6秒をこえる天然のリバーブ。通常の楽器演奏にはかえって邪魔になる反響音を、サキソフォビアは実に巧みに活かして、荘厳なパイプオルガンのごとくにサキソフォンを響かせていました。

サキソフォビアの大谷資料館でのコンサートは、2009年10月に続いて2度目となります。場所の特異性を充分に飲み込んだ演奏は、大谷石の露出した巨大な地下空間の隅々まで駆け巡り、観客はまるで音の濃霧に包まれたような独特の音空間を体験しました。

サキソフォビア　コンサート（大谷資料館/2009年11月7日）

5月17日、南宇都宮駅前の大谷石蔵を利用した悠日カフェにて、渡辺貞夫クインテットのライブが行われました。

うつのみやJAZZのまち委員会10周年事業のイベントとして、150人程度の規模での演奏空間を探していましたが、大谷石蔵を活用した悠日カフェが、規模、雰囲気ともに理想的だと選ばれました。

1ヶ月前、新聞などで募集した入場希望者は予定席数の倍を超えました。そのため抽選でチケットの販売を行ったため、多くの人たちに残念な思いをさせてしまいました。

渡辺貞夫クインテット　ライブ（悠日カフェ/2010年5月17日）

会場に足を踏み入れた時渡辺貞夫さんも、良い会場ですねとおっしゃっていました。荒々しい大谷石積みの壁の上に鉄骨トラスが載った穀物蔵はこのステージの為にライティングされ、リスナーの歓声と共に素晴らしい演奏を引き出していました。

大谷石の空間が、宇都宮のJAZZ文化を育ててくれています。いつか世界に向けて発信出来るまでに熟成すればと願いながら、私もこれらの企画に参加しています。

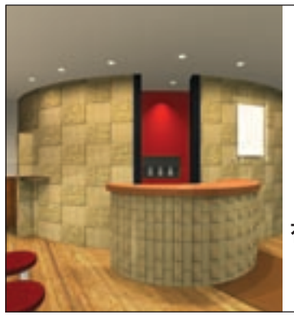
大谷の民話・史跡あれこれ

多気城の築城

（NPO法人 大谷石研究会理事広報担当　柏村　祐司）

多気山の頂上は、御殿平と呼ばれ中世多気山城の本丸があった。ここに城が築かれたのは、戦国時代である。それまで宇都宮氏は、宇都宮に城を構えていたが、当時宇都宮の南には北条氏側につく小山氏がおり、西側には敵対する壬生氏がいたので、宇都宮氏にとって平城の宇都宮城の防御では心もとないものがあった。そこで天正4年頃、多気山に城を築いた。その後第22代宇都宮城主宇都宮国綱は、北条氏などの侵攻に備えて多気山城を本拠地として整備し、宇都宮城を家臣に任せ、自ら主だった武将を引き連れて多気山城に移った。しかし、これもつかの間、慶長2年（1597）国綱は豊臣秀吉によって改易され、これに伴い多気山城も廃城となったのである。

広告デザイン おまかせください
広告・パンフレット・チラシ・ノベルティ・イベント・イベント用ウェア
有限会社 栃木広告社
栃木県宇都宮市材木町4-2 松本ビル3階
TEL 028-639-1115/FAX 028-639-1116
E-mail tochigi-ad@crux.ocn.ne.jp


大谷石と共に150年
採掘販売事業部・石材加工事業部・砕石加工事業部
設計・施工
有限会社 高橋佑知商店
本社　宇都宮市大谷町３５０番地
TEL 028(652)0005(代表)
FAX 028(652)0192